

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百六十九)

第七章 「アラブの春」―はかない夢のひと時 (二)

百六十九 もう沢山！長期独裁に倦んだ大衆 (二―四)



MENAで最初に独裁者の地位を得たのはリビアのカダフィであった。カダフィのことは第四章でもふれたが、彼は1969年にクーデタで当時の国王を倒して最高指導者となった。若干二十七歳であった。彼はそれから四十二年間もその地位を保ち、2011年に内戦で六十九歳の人生を終えた。

彼の後に現れたのがシリアのハフィーズ・アサドである。シリア派の一派とされるシリア北部のアラウィー派の少数部族出身のアサドは空軍将校を経てバース党内で頭角を現した。1971年に大統領に選出されたハフィーズは長期政権体制を確立し次男のバシヤール・アサドを後継者に指名して2000年に心臓まひで死亡した。バシヤール・アサドは現在も同国大統領の座にある。親子で通算するとすでに半世紀以上経過している。

このほか1970年代に一国のトップに駆け上り、その後長期間にわたり独裁を続けた人物にイエメンの故サレハ大統領とイラクの故フセイン大統領がいる。サレハは陸軍総司令官を経て三十六歳の時の1978年に統一前の北イエメン大統領に就任、南北統一後も大統領の座を守り2011年のアラブの春で失脚した。彼は下野した後も反政府のフーシ派と連合勢力を結成、首都サ

ナアを占拠して復活を狙っていたが、2017年にフーシ派によって暗殺された。2011年までの大統領在任期間は33年に達する。そしてイラクのサダム・フセインはバース党幹部から1979年にイラク大統領に就任した。その後、イラン・イラク戦争さらに湾岸戦争をしぶとく生き延びたが、2003年のイラク戦争で失脚、裁判によって処刑された。彼の大統領在任期間は二十四年間であった。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakazuyai@gmail.com